

東京都庁「側近政治」は
もう限界…

石原慎太郎都知事を追いつ込む



東京都政が大混乱している。石原慎太郎知事自ら「腹心」と呼ぶ浜渦武生副知事に都議会が辞職要求を突きつけ、他の副知事ら幹部3人は「進退同」を出す「非常事態」なのだ。裏には複雑な背景があるとはいえ、本誌が昨年の連載記事で指摘した「側近政治」の限界が十分に露呈した。

子飼いの副知事のクビ

浜渦武生副知事



都議会自民党
ガチンコ勝負」の本気度

紛糾する百条委＝3月29日

「私も人生の中で初めて経験したけれども……ま、それ以上言うのはやめよう」

5月27日の定例記者会見で、東京都の石原慎太郎知事は、問わず語りにそうつぶやき、会見場を後にした。石原知事にしては珍しい、「弱音」めいた言葉だった。それだけ、追いつ込まれていくのだろうか。都庁で一体、何が起きているのか――。

浜渦武生副知事は、3月の都議会答弁をきっかけに

知事与党の自民、公明両党から辞職を求められている。その理由は、都議会の調査特別委員会（百条委員会）での「偽証」である。

背景には都議会自民党との確執、7月の都議選を控えた各党間の思惑、都庁の幹部人事をめぐる争いなどが複雑に絡まりあっているというが、都政関係者の一致した見方だ。

そして、副知事4人のうち福永正通、大塚俊郎の両氏、横山洋吉教育長の計3人の幹部が「都政混乱の責任を取る」と、石原知事に「進退同」を提出した。

複雑な背景は後述するとして、問題の根本には、本誌が連載した「石原慎太郎研究」の4回目「都庁職員を沈黙させる側近政治の重圧」（04年2月8日号）で指摘したように、浜渦副知事に権力が集中する都政の歪んだ実態がある。

浜渦副知事は都庁各局の幹部による知事への報告に

は、担当分野に関係なく必ず同席する。一方、幹部らが浜渦副知事に面会しようとしても、なかなか許されずしない。代わりに「お手紙」と称する、意向を伺う文書を提出し、浜渦副知事はそれに「○」や「×」をつけて返すという妙な慣行が生まれた。

元都庁幹部は憤る。

「○○(他の幹部)の言うことばかり聞くな」と書かれて戻ってきたこともあり、面会できても、怒鳴る、書類を投げるはしょつちゆうで、胸ぐらをつかまれた幹部もいます」

都政専門紙『都政新報』が4月に実施した職員へのアンケートによれば、都庁の雰囲気について、「自由に発言しづらい」「管理職が上

部の意向を気にしてなかなか意思決定できない」などの質問に約7割が「そう思う」と答えている。

ある都職員が明かす。

「浜渦副知事は人事権を振りかざして職員をすぐに飛ばすものだから、みんな『目をつけられないように』と息を潜めている。定年が近い幹部など『早く下りたい』と、肩を差し出しているような状態。都庁内での出世を望まなくなるなんて、前代未聞ですよ」

都庁職員を覆う士気低下は、危機的状況といえる。

浜渦副知事といえば、学生時代に石原知事に共鳴し、1970年に大学を卒業してすぐに石原事務所入りした「たたき上げ」の大物秘書として名高い。

ある都幹部OB

によれば、かつて石原知事に「浜渦氏を重用しすぎではないか」と進言した都幹部に、知事は「浜渦は○

○を殺せ」と言えば、本当にやる男だ。お前にはできないだろう」と答えたという。

「一種の体育会的世界(自

民党都議)という二人の関係。石原知事は都庁内の一斉放送で「ハンコを預けてあるので、決裁は浜渦副知事を通すように」と公言したこともある。

まさに一心同体、「子飼いの部下なのだ。

しかし、浜渦副知事は議会、特に自民党から疎まれてきた。その原点は、「石原知事が初当選した99年の選挙にある(都議会自民党元幹部)という。その選挙で自民党は明石

職員を覆う危機的な士気低下

前出の元都幹部も言う。

「浜渦副知事も、自民党と関係のよかった局長を次々に飛ばした。それで議会との意思疎通がスムーズにいかなくなった」

こうしてくすぶっていた

康・元国連事務次長を支援していた。終盤に石原陣営を中傷するピラが回り、自民党が出どころとみた浜渦氏が乗り込んできた。

「その時、浜渦氏は当時の内田茂幹事長(現・都議会議長)を怒鳴りつけるなど、非常に乱暴な態度だった。それで反発が広がった(前出・元幹部)

都議会は石原知事当選の1年後、ようやく浜渦氏の副知事選任に同意した。

「ところが、その後も浜渦副知事はちつともここ(議員控室)に顔を出さない。機会に呼んでも来ない。極めて議会軽視だ(前出・自民党都議)

「火ダネ」が、ついに燃え上がったのが、3月14日の都議会予算特別委員会だった。

浜渦副知事は、都社会福祉事業団に対する補助金についての民主党議員の質問に「不法でない形で処理さ

れなければならぬ」と、予算の提案者でありながら、違法性をほめめかすような答弁をし、これに自民党が猛反発。百条委員会の設置を提案したのだ。

百条委での自民党は、最初から浜渦副知事を糾弾する姿勢に満ちていた。例えば3月29日のこんなやり取りがある。

自民党議員「自公(自民党、公明党)をばらばらにしてやるとか、あるいははずたずたにしてやるとか、このような趣旨の発言を某所でなされたら私も聞いています。このようにご発言をなさったのか、お伺いします」

浜渦副知事「私はそんなことを言ったことは一回もございません」

百条委の議論は補助金問題そのものよりも、発端となった質問は浜渦副知事が民主党議員に依頼したのではないかと、「やらせ」疑惑に焦点がずれていく。一方で、職員の間にも、



パフォーマンスの間にも足元は揺らく
=5月20日「沖ノ鳥島」を視察

浜渦副知事と、その側近とされる出納長らを批判する34ページもの「怪文書」、「浜渦派」とそれ以外を色分けした「解説図」が出回るなど不穏な空気が漂った。

た他党もそれに乗った——というのが大方の見方だ」
こうして、自公に共産党生活者ネットも同調するといふ、民主を除いた奇妙な「共闘」が生まれたのだ。

否定した。だが、百条委は都職員への「陳述書」などから、これを偽証と認定。浜渦副知事が辞職しなければ偽証罪での刑事告発も辞さない強硬策に出た。過去の対立とは比べ物にならない「ガチンコ勝負」である。

自民党関係者が明かす。「浜渦氏だけでなく、ほかの副知事と出納長、教育長もそろって辞任させる裏シナリオも囁かれています。それなら浜渦氏だけ傷つくことは避けられるからね」

前出の元都幹部は言う。「浜渦副知事がいなくなったら、知事は確実に孤立します。知事の味方は都庁にはもういない。都庁に來ないで浜渦副知事に任せつ放しにし、その浜渦氏は優秀な幹部職員を追い出してしまった。今回の問題は石原都政6年間の蓄積の上に噴出した。知事はそろそろ、身の引き方を考える時です」

「都庁に來ない知事」が遠因に

「補助金問題の背後には、自民や公明を敏感に反応させる『裏事情』があるのではないかと噂されていた。浜渦氏はそれを利用して、側近である出納長と組んで、自民党実力者の内田議長、そして議長との関係が良好といわれる副知事候補の幹部も追い落とそうとしたが、自民党の逆襲に遭った。浜渦氏を快く思っていないかっ

しかし、自民党は知事の責任を問おうとはしない。都議選（6月24日告示、7月3日投票）を前に、街頭には自民党都議と石原知事が笑顔で握手するポスターが目立つ。石原知事との対立を恐れているのだろうか。だが、都議会自民党幹部

は余裕の笑みを浮かべる。「知事は浜渦氏より三男坊のほうが可愛いはずだよ」

「私はある部分は連帯責任があつたと思います」

本誌が昨年集計したところ、石原知事の登庁は平均して週に3日程度。それは今も変わらない。自身の勤務実態が今回の問題の遠因になつて、石原知事は分かつているだろうか。

だが、都議会自民党幹部

前回は院選で落選、再出馬を図る石原知事の三男、宏高氏の「生殺与奪の権」を握るのは自分たちであり、最後は知事が折れる、と読むのだ。

「連帯責任」が「総入れ替え」を意味するのだろうか。だが、仮にそうなつた場合も、都政の混乱はそう簡単には回復しやうがない。

本誌・日下部聡

夫は逝つた裏切りという遺産をのこして

魂萌え！ 夏生 桐野

世間とは、こんなにも激しく、思惑と欲望が渦巻く場所だったのか。何も知らなかつた平凡な主婦が、初めて自分の中に湧き上がる、とまどまな葛藤と戦いはじめる



各誌誌で絶賛！
たちまち6刷！！

●定価1785円(税込)
4520106909

毎日新聞社

〒100-8051東京都千代田区一ツ橋1-1-1
●お求めは、お近くの書店または毎日新聞販売店へ